

## 事例①古民家リノベーション「トンネルの向こう側」 予算：150 万位



セミナー中に古賀さんが「床面積の減少・コストダウンを考慮し、屋内庭園を造るという発想の元で設計し、建物の強度・床面積・予算など様々な条件をクリアしつつ、建物・外構の同時設計を行うことで不可能を可能にできた物件」と建築設計士との連携がうまくいった例としてあげていた築 150 年の古民家リノベーション。

「イメージとして、屋内庭園の魅力を伝えるために「トンネルの向こう側」と題し、北側からみた屋内庭園の見え方にこだわりました。道路を通る方たちは『あの向こうに何があるんだろう』と、ワクワクするような設計を心がけました。」



トンネルの向こう側



トンネルのこっち側

「リノベーションの醍醐味は引き継がれるものは大切に引き継ぐということです。こちらの古民家は築 150 年の庄屋さんです。引き継がれている灯籠は 200 年位前からあるとか。庭で使われている景石や古いかまどのタイルをアプローチに埋め込んだりと住んできた方たちの思いを引き継ぐことが出来た物件だと思います。」



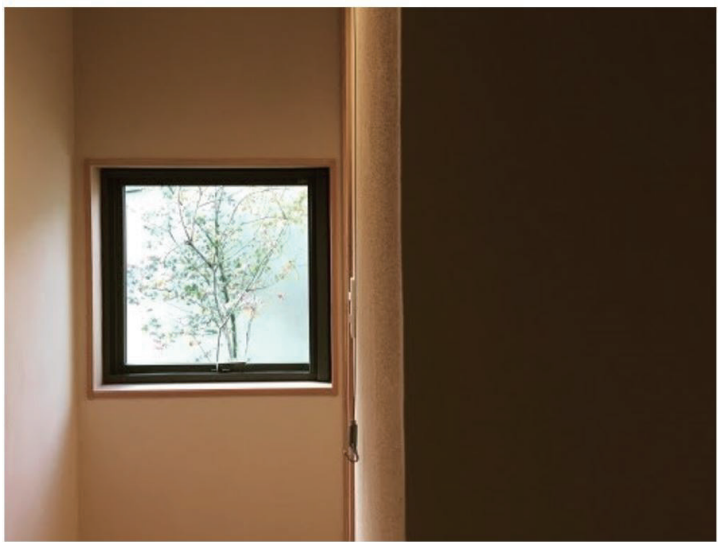
引き継がれる灯籠・景石



## 事例②光と影・視線の先の考え方

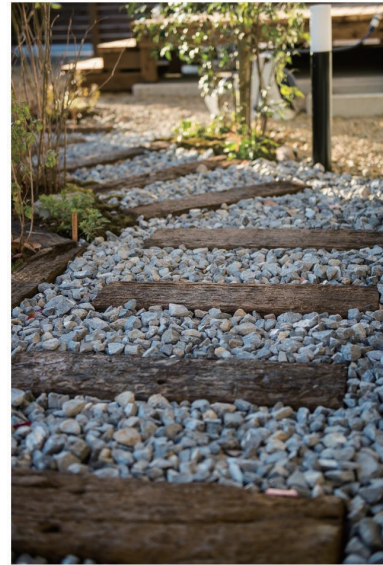


セミナー中に話していたようにバスコートを提案することが多いという日本ハウジング。そんな中、日本ハウジングがこだわっているのがバスコートからの景色。「外部から見えないように設計士と連携して窓の位置・大きさの調整をしたりして目隠しを計画します。それでも 100%の目隠しが不可能な場合は、軒先にすだれなど風情のあるものを取り付けたりと工夫をしています。また、照明の位置も大切で下から照明を当てるか、上から当てるか物件ごとに検証しながら決めていきます。上から当てる場合は器具が見えないようにする工夫も大切にしています。」



「日本ハウジングの家はとてもシンプルです。設計士は常に室内を広く見せる工夫を怠りません。空間に奥行きを感じさせたり、広がりを感じさせるために、建具の高さを天井まで作り余分な線を排除したり、北から南、西から東へ視線が通ると空間が広く見えるなど様々な創意工夫を凝らしています。私の仕事は、例えば左のピクチャーウィンドウの視線の先に植栽が彩を加えたり、植物の成長を観察出来るよう工夫をしたり、右の写真のように光と影を楽しんでもらったりするための「視線の先の演出」を考えることです。植物の影の演出は偶然の産物もありますが、植栽するときにこんな感じで枝の影が出来ると素敵だなと想いながら植えています。また外部のフェンスや造作物も建物と調和した、統一された素材で作rid出すことが出来るのは日本ハウジングの一番の強みです。」

## 事例③府内町家「現実から非現実へ」 予算：約 200 万



「こちらの物件は高低差が北・東で 800 mmほどある土地で、盛り土が必要な土地でした。この物件も造成イメージを CAD で説明しながらの打ち合わせだったのでお施主様も安心して土地の購入が出来ました。お施主様のライフスタイルは自転車通勤で会社までは約 5 分という環境。職場が近いという事と自転車の乗り入れを考え、なるべくならかなスロープを造りたい。それでいて、『我が家に帰って来た』というイメージより、田舎の旅館に迷い込んできたという、「現実から非現実へ」というイメージを造り出したいと思いました。通勤時間が短かったり、通勤経路に変化がないと心の切り替えが出来にくいと聞いたことがあり、あえて長いアプローチにし、大きめの砂利と枕木を使用しました。あまりアプローチ舗装にはふさわしくないかもしれないけれど、コンクリートやアスファルトの感覚とは違う、石と木の感覚を踏みしめながら四季折々の草花を楽しむ。ちょっとした「非現実感」を感じることが心の切り替えになってくれたらと考えました。設計前は違う位置にアプローチを配置する予定でしたし、社内でも賛否ありました。プレゼン前はドキドキでしたが、お客様が気に入ってくださりほぼ変更なくご契約に至りました。」



「この物件は薪ストーブがあるので薪調達の動線を考え【目隠し兼・両面出し入れ可能薪棚】というものを作りました（画像左）。両面出し入れ式はお客様のアイデアです。買ってきた薪を開閉できる棚の外側から入れることができ、室内に運ぶ時は内側から取りやすくなっています。また、この物件はウッドデッキの軒が深いので縦に長い樹形の物より横に広がった植栽の方が映えるだろうと思い、横に広がった樹形のモミジを選び、日向ぼっこしながらデッキの上で紅葉を楽しんでもらえるようにしています。写真を撮ったのが冬なので落葉していますが…。」

## 事例④府内町家 予算：約 250 万



「土地が売りに出ていたころは、雑草が生い茂り、全く全貌が見えないような土地でした。お施主様はこの土地を購入し、どんな感じに生まれ変わるのだろうとワクワクしておられました。設計士の腕の見せ所です。建物の向きや、窓の位置を工夫しとても素敵な空間が出来上がりました。ちなみに最初に現調に行ったイメージは、どこかノスタルジックなイメージの土地でした。お隣に千と千尋に出てくるような古い民家、そのお隣は神社という周辺環境によるものだと思います。新しいけど、どこか落ち着いた趣のある家。」



「踊り口のように小さいエントランスを抜けて広がる広い空間と、しっとりとした大人のアプローチ。小さなエントランスがすべての始まりで、帰ってくるところ。中庭では芝の庭で子供たちが石のベンチに座り、おしゃべりをしている風景が頭に浮かびました。落葉樹と芝で、夏と冬では表情が全く違い四季折々の変化を楽しめる庭となっています。」



「リノベーション前の土地にあった枯山水や景石に使用されていた石をアプローチや階段に使っています。古い庭の石は組み合わせ次第で、趣のあるしっとりとした美しい姿になります。」



日本ハウジング株式会社で使用していただいている  
外構・造園設計 CAD  
RIKCAD の詳細はこちらから！